



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

# 佐土原ロータリークラブ週報

1995・96年度国際ロータリー・テーマ 国際ロータリー会長 ハーバート・グラハム・ブラウン



Act with Integrity  
Serve with Love  
Work for peace

## 〈本日のプログラム〉

第 377 回 平成 7 年 8 月 25 日(金)

1. 点 鐘
2. ロータリーソング  
「手に手つないで」
3. 食 事 (100万\$)
4. 会 長 の 時 間
5. 幹 事 報 告
6. 各 委 員 会 報 告
7. 会 員 卓 話 岩切正司君
8. 点 鐘

会 長	藤 堂 孝 一
副 会 長	斎 藤 芳 夫
幹 事	福 井 輝 文
会 計	中 武 靖 雄
会 議 委 員 長	垂 水 敏 雄

### 佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)  
 例会場 ホテル神宮寺 ☎0985-73-0015  
 事務所 ☎880-02佐土原町大字下田島7912  
 (株) 福井工務店内 ☎0985-73-0291

## 第376回例会記録

(1995. 8. 18)

### ☆会長の時間

藤堂孝一君

皆さん今日は、本日は第376回例会です。連日の炎暑ですので、くれぐれも健康維持にご留意していただきたいと思えます。

ご承知のように7月3日から西都原古墳群の発掘調査が始まりました。大正時代の発掘調査以来80年ぶりの本格的調査で、全国有数の集積度を誇る古墳群だけに、考古学関係者の注目を浴びています。地元の西都市では、大正初期の発掘で出土した国重要文化財である船形・子持ち家形埴輪を、東京国立博物館から西都市立歴史民俗文化資料館へ返還してもらった運動が盛り上がっているそうです。

ただ、その埴輪は、わずかな振動でも毀損しやすいので、移動厳禁となっているところに問題が残されているとのことでした。

隣接市でありますので、何とか返還が実現できるよう期待しています。

### ☆幹事報告

副幹事 赤木達也君

例会変更通知

\*日向東RC 8月29日(火)

午前6:30

伊勢ヶ浜海岸(清掃)

本日のビジター

高鍋RC 楠元真澄君

### ☆出席報告

委員長 恒吉正志君

会 員 数	30名
H C 出席者数	22名
欠 席 者 数	8名
出 席 率	73.3%
メイクアップ者数	4名
修正出席率	86.7%
欠 席 者 名	井下・垂水・池田・福井

### ☆親睦委員会より

委員長 郡司武俊君

8月セレモニーが未了でありました次の方に、藤堂会長より記念品をお贈りして、心ら祝福申し上げます。

結婚記念日祝い 森田邦宏君  
誕生日祝い

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

### 8月セレモニー受祝者のハッピーボイス

酷暑 お見舞い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。皆様方の益々のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。そして、佐土原ロータリークラブが益々栄えますこと……を祈りつつ 森田邦宏

今日ある日をありがたいと思います。明日がもっと存在あるものにするために、努力あるのみです。

皆さんありがとうございます。

赤木達也

### ☆情報委員会より

委員長 佐野 保君

9月2日に宮崎市で地区情報委員長会が開催される予定です。ロータリー情報について関心をお持ちの方は、是非ご参加をお願いいたします。

### ☆社会奉仕委員会より

委員長 伊東忠寛君

8月12日に神田橋ホテルで宮崎県内社会奉仕委員長研修会がありました。

各クラブから、社会奉仕委員会の活動計画、予算等について発表がありました。大同小異といったところでした。

研修会の最後に、池田卓郎カウンセラーより総評がありました。はじめに、各ロータリークラブが積極的に社会奉仕活動に取り組んでいることに対するお礼の言葉があり、続いて、次のようなお話がありましたので、ご紹介いたします。

社会奉仕についての認識や、ロータリー全体についての基本的な考え方が、最近何となくおかしいのではないかと思います。

もう一度、「ロータリーの社会奉仕活動に対する方針 決議23-34」を読み直し、ロータリーの社会奉仕の意義を皆さんが正しく理解していただきたい。

奉仕とは何か、端的に言えば、口を出す、手を出す、金を出す、の三つになると思う。最後の金を出すについては、ただ単に金を出すのではなく、どこに、何のために、どうする必要があって出さなければならないのかをしっかりと見極めた上で、納得して、奉仕の理念に基づい

て出すことを忘れてはいけない。

さらに、「奉仕の心」とは「本当の愛の心」である。奉仕とは、愛を分け与えなければならない。分かち合うものである。最終的には、奉仕とは汗と労力の結晶である。

佐土原クラブをはじめ、桜の植樹寄贈を社会奉仕活動計画に挙げているクラブがありましたが、それに関連して、えびのRCから次のような提案がありました。

ソメイヨシノ桜はきれいであるが、えびのRCでは山桜を植えた。山桜は寿命が200年くらいあるが、ソメイヨシノ桜はせいぜい40年から50年である。

また、枯れ朽ちた後、山桜は燻製の材料になるが、ソメイヨシノ桜は何にも使えない。どうせ植えるなら山桜を推薦したい。



### ☆会員卓話 伊東忠寛君

本日は「注意一秒 怪我一生」というテーマで、身内の交通事故の事例を挙げ、交通事故の悲惨さと、人間の運命というものについて話してみたいと思います。

その前に、わが国の交通事故第1号を調べてみますと、明治32年(1899年)12月、東京の三宅坂で発生しています。

皇太子(後の大正天皇)ご成婚のお祝いに、サンフランシスコ在住の邦人から1台の電気自動車が献上され、港から皇居まで数名の国鉄機関士が交替で運転することになりました。

(続く)



## 「ロータリーの社会奉仕活動に対する方針決議 23-34」の要約

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてが、その個人生活、職業生活、及び社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励し、育成することである。

1. ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。

この哲学は奉仕-「超我の奉仕」-の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づくものである。

2. 本来ロータリー・クラブは、実業人及び専門職業人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。

まず第一に、奉仕の理論が職業及び人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。

第二に、自分達の間においても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。

第三に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業及び日常生活において実践に移すこと。

第四は、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外の人々のすべてが、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。

3. 国際ロータリーは次の目的のために存在する団体である。

- (1) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成及び全世界への普及
- (2) ロータリー・クラブの設立、激励、援助及び運営の管理
- (3) 一種の情報交換所として各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図る。

4. 奉仕する者は行動しなければならない。ロータリーの哲学は単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。

ロータリアン個人もロータリー・クラブも奉仕の理想を実践に移さなければならない。ロータリー・クラブの団体的行動は次のような条件の下で行うように勧められている。

毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動（なるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなもの）を後援するようにすることが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつクラブ全員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個人の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。

